

伊丹歌壇

〔蛭〕坪内稔典 選
(佛敎大学・京都敎育大学名誉敎授。
柿衛文庫理事長)

最優秀賞

兄の手に 返した蛭 あの子

「あの子」は眼前を飛ぶ。そして、かつて兄の手に返した幼い日の思い出の蛭もある。今と昔を明滅させて蛭は飛ぶ。今回の蛭の句には回想の場面が多い。蛭がどこにでもいる自然を回復させたいものだ。

優秀賞

弟とほたるを追って闇追って
子が叫ぶ母の頭に蛭きて
橋の上チュウしたりして初蛭
雨の止み蛭を放つ草の闇
はたるさん 彼の視線を とらないで
伊奈 泰樹(愛知県安城市)

伊丹俳壇

〔遊園地〕 尾崎まゆみ 選
(玲瓏 選者・神戸新聞文芸短歌選者。
現代歌人協会会員)

最優秀賞

静寂ののちの疾走絶叫の一部となりて私も叫ぶ
小林 礼歩(東京都西東京市)
遊園地とも、ジェットコースターとも書いていないけれど、ジェットコースターに乗って動き出す前の緊張感が「静寂」に、乗っている最中のワクワク感と一体感が「絶叫の一部となりて」にしっかりと見えてくる佳品。

優秀賞

歩みゆくほかは知るなわたくしが空へ翔けいむゴンドラに乗り
瀬戸内 光(山口県光市)
楽々園遊園地駅へと至る原爆ドームからの広島
小田 慶喜(明石市)
東京を遊園地だと思ってるきみとはいとも手をつなぎたい
えんとうけい(埼玉県狭山市)
もう君に会えない行き場失くしたる年間パスに残った時間
野呂 裕樹(大阪市)
遊園地に半回転す空と地と記憶のピースは空飛ぶダンゴ
知地 一代(神戸市西区)



今回の兼題は、俳壇は「月」、歌壇は「キッチン」とします。応募は1人各1作品、自作未発表作品に限る。応募締切は、8月15日(必着)。最優秀賞には図書券千円進呈。左のQRコードを利用すると、ケータイからも応募できる。問い合わせは、ことば蔵へ。

伊丹の清酒を飲みくらべ

観光物産ギャラリーで地酒販売

JR伊丹駅改札横にある市立

観光物産ギャラリー(観光案内所・売店)で今年4月から地酒の販売が始まった。「清酒発祥の地・伊丹」のいっそうのPR効果が期待されている。

戦国武将、山中鹿介の子、新六幸元が鴻池で濁り酒から清酒を作ることに成功、江戸に出荷して財を成したと言い伝えられることから、伊丹市は「清酒発祥の地」を標榜し、清酒乾杯条例も制定、日本酒文化の振興に努めている。今年4月から同ギャラリーの指定管理者となった伊丹まち未来株式会社酒販免許を取得、地酒販売が実現し

た。

販売されているのは、清酒「白雪」で知られる1550年創業の老舗・小西酒造(東有岡1)と江戸幕府の御免酒にもなった清酒「老松」で知られる伊丹老松酒造(中央3)の各種日本酒やりきゅる。

観光客や市民が贈答や家飲み用に買い求め売れ行き好調と聞くが、贈答用に特に人気なのは両酒造会社の吟醸酒を1本ずつセットにした同店オリジナル商品「伊丹銘酒飲みくらべ」11写真だ。

小西「吟醸ひやしぼり」と老松「吟醸」の各300ミリ瓶のセットで千円(税込)、



小西「吟醸ひやしぼり」と老松「吟醸」の各720ミリ瓶のセットが2千400円(税込)。300ミリ瓶のセットのラベル



林やよい
伊丹市在住。毎日新聞兵庫版にイラストエッセイ「くるまいすまいる」を連載中。



▼万葉集と酒

いよいよ「令和」が始まった。新しい時代を迎え、ワクワクしている方も多いことだろう。さて、「令和」の出典は万葉集ということ、酔後録も万葉集から酒の歌を少し紹介したい。

大伴旅人の「験なきものを思はずは一坏の濁れる酒を飲むべくあるらし」という歌が

▼酒と文化の薫るまち

個人的な話になるが、自治体職員の出発はこの春の人事異動により、新たなミッションをいただいた。それは、文化ゾーンをリニューアルのうえ活性化させたい、というもの。工事は先の話であるが、このゾーンの基本テーマが「酒と文化の薫るまち」なのだ。



(ときわ喜多)

8時営業。同ギャラリーは年中無休(年末年始除く)。午前10時〜午後

伊丹酒造組合加盟の岡村酒造場(三田市)、川辺酒造(猪名川町)の清酒も発売された。魅力的なお酒が増え、選ぶ楽しみが広がろう。

6月からは、地ビール2種と伊丹酒造組合加盟の岡村酒造場

生酒が駅で買えるのは便利だ。

蔵シヨップ(中央3)以外での販売はここだけという。これらの

少なく、特に「淡にこり」は長寿

酒製品も並ぶ。酵母が生きてい

る生酒は要冷蔵のため取扱店が

冷蔵ケースには小西酒造の生

酒製品も並ぶ。酵母が生きてい

る生酒は要冷蔵のため取扱店が

冷蔵ケースには小西酒造の生

酒製品も並ぶ。酵母が生きてい

る生酒は要冷蔵のため取扱店が

若いころの話。初めてのキュロットスカートで友だちと会うことになり、自転車出かけた。上り坂をヨイショヨイショと2〜3回漕いだ途端、土手の下にすべり落ちてしまっ

た。

くるっと一回転。背中何かに丸

いものが当たって

いるのをグクグク

と感じる。そこは

なんとキャベツ畑

だった。背中の痛

さよりもキャベツ

が気になったが、

キャベツは一つも

壊れていなかった。

奇跡。まさにキセキだった。

通りがかった車の女性が自転車を

引き上げてくださった。赤い車だったのを覚えてい



災難はキュロットから

る。丈の長いキュロットだったので、裾がベダルに絡んだのだ。幸いにも病院が近くにあって、レントゲンを撮ってもらったところ、背骨には異常がなかった。私は不死身だ!!

煙の前は親戚の家

だった。恥ずかし

くて行けなかった。

あつそうそう、落ち

る時、くるとまわ

って小宇宙みたいな

感じがした。

余計なことですが、後日、その親戚

の前の溝の方から「うーんうーん」という声が聞こえてきた。夜中の二時ごろのこと。見に行くと、男性が溝にはまっていた。酔っぱらい油断して落ちたらしい。クワバラクワバラでした。

(平 きみえ)